

国土数値情報（バスルート）

製品仕様書

第 2.0 版

令和 5 年 3 月

国土交通省不動産・建設経済局

版	更新日	改定内容
第 1.0 版	2012 年 3 月	新規作成
第 2.0 版	2023 年 3 月	一部改訂 ・ 地理情報標準プロファイル (JPGIS) 2014 (令和元年 7 月) に準拠 ・ 整備対象からデマンドバスと高速バスを除外 ・ XML の符号化仕様を修正

目次

1.	概覧	1
1.1	空間データ製品仕様書の作成情報	1
1.2	目的	1
1.3	適用範囲	1
1.4	引用規格	1
1.5	用語と定義	2
1.6	略語	2
1.7	参考資料	2
2.	概覧	2
2.1	適用範囲識別	2
2.2	階層レベル	2
3.	データ製品識別	3
4.	データ内容および構造	3
4.1	応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書	3
4.1.1	国土数値情報応用スキーマパッケージ	3
4.1.2	交通-交通パッケージ	4
4.1.3	バスルートパッケージ	5
4.2	空間スキーマプロファイル	14
4.3	時間スキーマプロファイル	14
5.	参照系	14
5.1	座標参照系	14
5.2	時間参照系	14
6.	データの品質	15
6.1	品質要求及び評価手順	15
7.	データ製品配布	18
7.1	配布書式情報	18
7.2	配布媒体情報	18
8.	メタデータ	18

1. 概覧

1.1 空間データ製品仕様書の作成情報

本製品仕様書の作成に関する情報は以下のとおりとする。

- 空間データ製品仕様書の題名：国土数値情報（バスルート）製品仕様書 第 2.0 版
- 日付：2023 年 3 月 10 日
- 作成者：国土交通省 不動産・建設経済局 情報活用推進課
- 言語：日本語
- 分野：交通
- 文書書式：PDF

1.2 目的

本製品仕様書に基づく国土数値情報データは、国土計画や地域計画等の策定支援や、土地・不動産分野での活用を目的とする。また、各分野で広く利用されることも想定している。

本データは、全国のバスルートの路線（ライン）、事業者名について整備したものである。

1.3 適用範囲

本製品仕様書が適用されるデータの適用範囲は以下のとおりである。

- 空間範囲：日本全国
- 時間範囲：本製品仕様書に基づき作成されるデータの作成年度まで

1.4 引用規格

本製品仕様書は以下の規格から引用する。

- 地理情報標準プロファイル（JPGIS）2014（令和元年 7 月）

1.5 用語と定義

本製品仕様書で使用される専門用語とその定義は、以下の資料に従う。

■ 地理情報標準プロファイル(JPGIS) 2014 「附属書 5 (規定) 定義」

■ GIS ホームページ ガイダンス

URL : <https://nlftp.mlit.go.jp/first.html>

1.6 略語

本製品仕様書で使用される略語は、以下のとおりとする。

■ JPGIS Japan Profile for Geographic Information Standards

■ JMP Japan Metadata Profile

■ UML Unified Modeling Language

1.7 参考資料

国土数値情報で使用されるコードリスト等については、以下のサイトを参照。

国土数値情報ダウンロードサービス

URL : <https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>

2. 概覧

本製品仕様書の適用範囲は次のとおりとする。

2.1 適用範囲識別

国土数値情報 (バスルート) 製品仕様書 第 2.0 版 適用範囲

2.2 階層レベル

データ集合

3. データ製品識別

本製品仕様書に基づくデータ製品の識別は、次のとおりとする。

- 空間データ製品の名称：国土数値情報（バスルート）データ
- 日付：2023年3月10日
- 問い合わせ先：国土情報提供サイト運営事務局
<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/inquiry.html>
- 地理記述：全国

4. データ内容および構造

本章では、本製品仕様書が扱う国土数値情報に関する UML クラス図および定義文書を記す。

4.1 応用スキーマクラス図および応用スキーマ文書

4.1.1 国土数値情報応用スキーマパッケージ

このパッケージは、国土数値情報応用スキーマを構成する各パッケージの依存関係を示したものである。国土数値情報応用スキーマは、国土数値情報データ集合パッケージおよび国土数値情報応用スキーマで共通に使用するコードリスト等をまとめた共通パッケージより構成される。国土数値情報応用スキーマに含まれる地物およびメッシュは、産業統計や沿岸域等のカテゴリにおいて定義される。

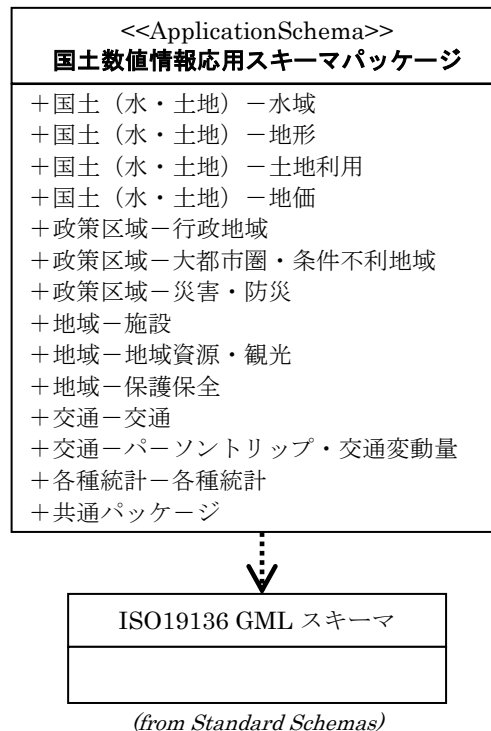


図 1 国土数値情報応用スキーマパッケージ

4.1.2 交通-交通パッケージ

このパッケージは、交通-交通パッケージをまとめたものである。

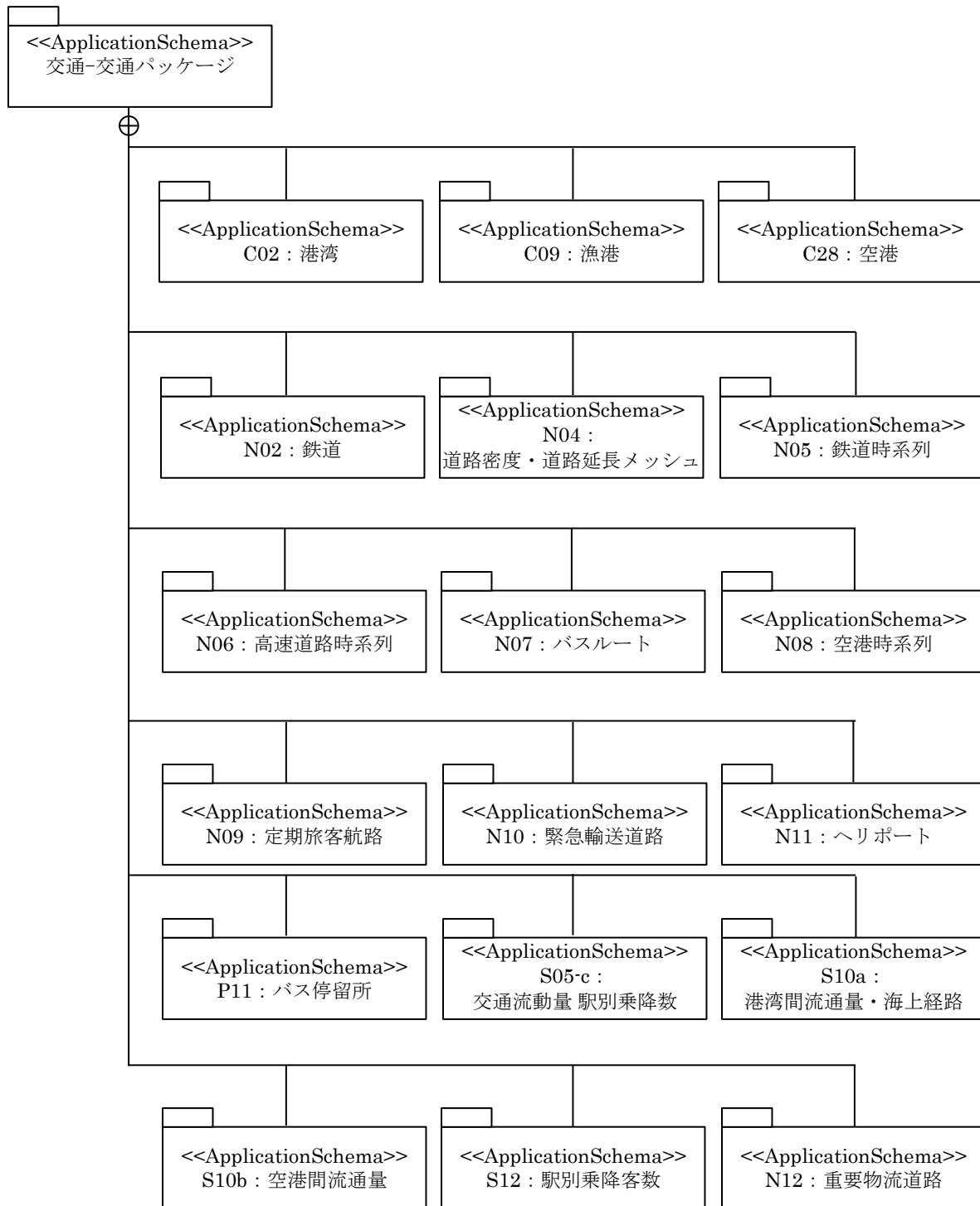


図 2 交通-交通パッケージ

4.1.3 バスルートパッケージ

このパッケージは、バスルートに関する内容をまとめたものである。

4.1.3.1. 応用スキーマクラス図

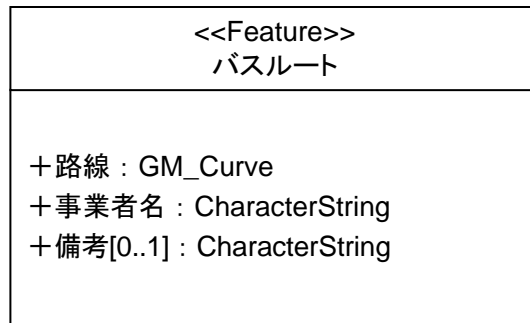


図 3 応用スキーマクラス図

4.1.3.2. 応用スキーマ文書

バスルート

バスルートは、バス路線（民間・公営）、コミュニティバス、その他のバス路線について、その経路を表したものである。整備対象は「路線バス（民間）」「路線バス（公営）」「コミュニティバス」「その他」の4区分（表1）とする。

表1 整備対象とするバス区分

バス区分コード	バス区分	説明	一般的な呼称
1	路線バス（民間）	民間事業者が企画・経営・運営を行うもの。民間事業者が民間事業者へ委託する形態も含む	路線バス、巡回バス・周遊バス、深夜バス、スクールバス [*] 、空港シャトルバスなどのように、有料かつ一般乗降可能で定期運行路線が整備されているもの
2	路線バス（公営）	市営バス等、都道府県または市町村の地方公営企業（交通局、交通部など）が企画・経営・運営を行うもの。地方自治体が民間事業者へ委託する形態も含み、公営交通事業者を対象とする	路線バス、巡回バス・周遊バス、深夜バス、スクールバス [*]
3	コミュニティバス	地方自治体、地域住民等が企画を行い、運行を外部（委託を受けたバス・タクシー事業者）に委託しているもの	コミュニティバス
5	その他	以上に含まれないもの 例）自治体と民間の共同運行	以上に該当なし

※一般混乗可能なもの

ただし、表2のバスは整備対象外とし「その他」のバス区分としても整備しない。

表2 整備対象外とするバスの種類

整備対象外とするバス	
デマンドバス	貸切バス
高速バス	福祉バス
特定日（イベント開催日）のみの運行	定期観光バス
年間3カ月未満の期間のみの運行 例）毎年10月から11月のみ運行	シャトルバス（ある地点の利用者サービスとして運行し、一般乗降不可もしくは運賃が無料なもの）
実証実験中のもの	スクールバス [*]
資料収集時点で運休中のもの	特定条件の利用者の輸送を目的とするもの [*]

※一般混乗可能なスクールバスは整備対象

運行を他の事業者へ委託している場合は、委託元の事業者の種類（民間／地方自治体）でバス区分を判断し、整備する事業者名も委託元とする。

また、自治体が民間に委託している場合のバス区分をコミュニティバスとするが、公営交通事業者が民間事業者に委託している場合にそれらをコミュニティバスと区分するのは不適當であるため、表3の事業者は委託の有無にかかわらず「路線バス（公営）」とする。

表 3 路線バス（公営）の対象

都道府県名	公営交通事業者
北海道	札幌市交通局
北海道	函館市企業局交通部
青森県	青森市企業局交通部
青森県	八戸市交通部
宮城県	仙台市交通局
東京都	東京都交通局
神奈川県	川崎市交通局
神奈川県	横浜市交通局
愛知県	名古屋市交通局
京都府	京都市交通局
大阪府	高槻市交通部
兵庫県	伊丹市交通局
兵庫県	神戸市交通局
山口県	宇部市交通局
島根県	松江市交通局
徳島県	徳島市交通局
福岡県	北九州市交通局
福岡県	福岡市交通局
佐賀県	佐賀市交通局
長崎県	長崎県交通局
熊本県	熊本市交通局
鹿児島県	鹿児島市交通局

■主題属性の日本語表記における共通定義域

1. 基本ルール

- 片仮名は全角文字を使用する。
- 英数字は半角文字を使用する。
- 記号類およびスペース「 」は全角文字を使用する。ただし、ハイフン「-」と、スラッシュ「/」は半角とする。
- タブ文字の仕様は不可とする。空白を挿入する際は全角スペース「 」を使用する。

2. Shift_JIS (CP932) で表現できない文字

新字体に変換できる場合は変換した上で直後に「※」、新字体に変換できない場合は読みをカタカナで記述した上で直後に「※」を入力する。読みの判らない記号等は削除する。

- 旧字体・異体字を新字体に変換する場合は、「※」を対象漢字の直後に入力する。
例) 「仁王像 一軀」 → 「仁王像 一軀※」
- 旧字体・異体字で該当する新字体がない場合は、読みをカタカナで記述し「※」を対象漢字の直後に入力する。
例) 「志度寺琰魔堂及び奪衣婆堂」 → 「志度寺エン※魔堂及び奪衣婆堂」
- 読み仮名の判らない記号等は、削除する。
例) 「タロ❀北上おおつつみ」 → 「タロ北上おおつつみ」

3. その他

- 括弧「 () 」は組み合わせて使用する。「括弧開き」または「括弧閉じ」の片方だけの入力は不可とする。

路線：GM_Curve

バス路線の位置を道路に沿ったルートとして示す図形とする。

バス事業者別に1本のラインデータとして作成し、1事業者を1図形データで作成する。ただし、複数の経路や分岐等がある場合はラインの交点でラインを分割し、1事業者を複数図形データで作成とする。この際、データはシングルパートとし、マルチパートにはしない。

また、以降における凡例は図4のとおりとする。

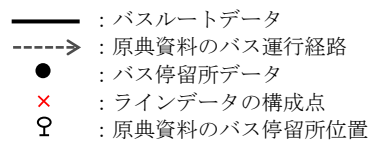


図4 図中の凡例

1. 基本ルール

- 乗客を乗せて運行するバス停留所間の運行経路をルートとしてラインデータで作成する。
- ラインデータの始終点には必ずバス停留所が存在する。ただし、折り返し部分を除く(図5)。
- バス事業者別に1本のラインデータとして作成とする。複数経路や分岐などがある場合はラインの交点でライン分割する(図5)。この際、マルチパートにはしない。
- バス停留所データにある該当バス事業者のバス停留所を全て通るようにラインデータを作成する。
- 地理院タイル等の国土地理院発行の地図上の道路を沿うように、実際の運行経路の形状で作成する。ただし地理院タイルの情報が古い場合を除く。
- バス停留所間は道路形状を無視した単純な直線では結ばない。

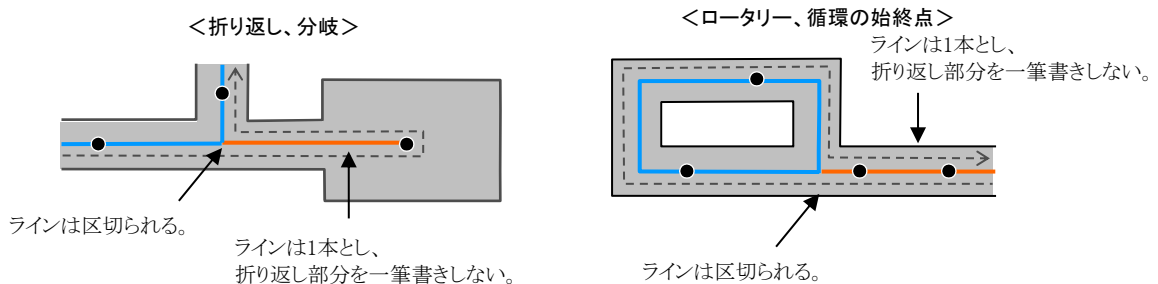


図5 ラインデータの分割

2. バスルートの形状

①バスルートのラインデータはバス事業者別に作成する。

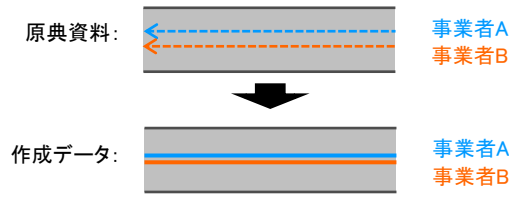


図 6 バス事業者別のバスルート作成方法

②同じ事業者の複数系統が同じ道路上を運行する区間は、1本のみラインデータ作成する。

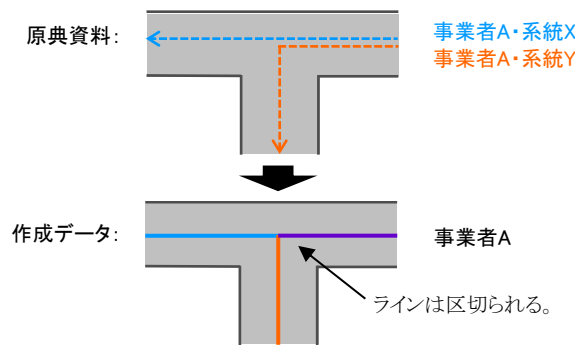


図 7 同じ道路上のバスルート作成方法

また、上下線で同じ道路を運行する場合は上下線をまとめた1本のラインで作成し、上下線が異なる道路を運行する場合は上下線をそれぞれ1本ずつ作成する。

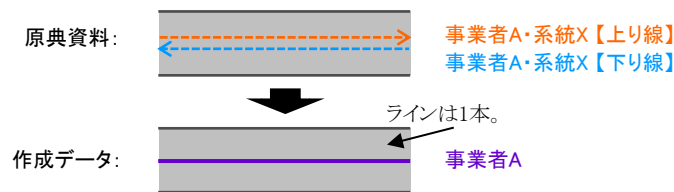


図 8 上下線で同じ道路を運行する場合のバスルート作成方法

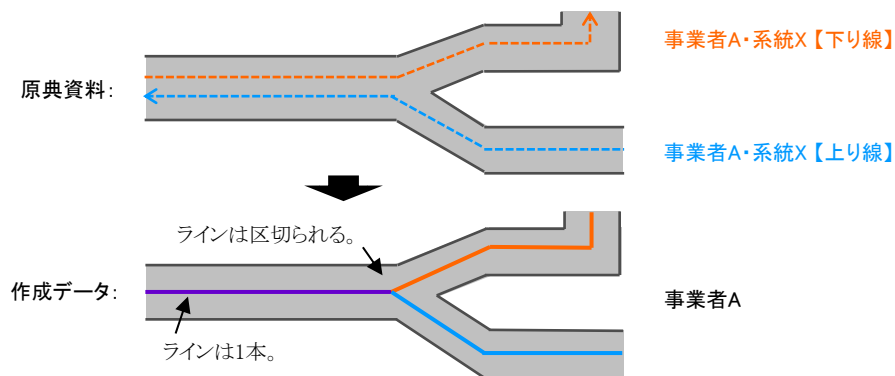


図 9 上下線で異なる道路を運行する場合のバスルート作成方法

③バスルートの構成点は、バス停留所の位置と重なるように作成する。
 バス停留所の位置と重なるように構成点を作成する。

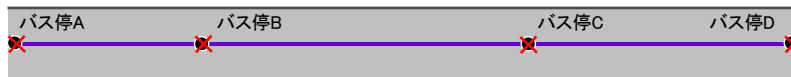


図 10 バスルート作成方法 1 (停車順 A→B→C→D)

運行する道路上に停車しないバス停留所 (バス停 C) が存在しても、そのバス停留所にバーテックスを作成する。

バス停Cには停車しないが構成点を作成する。

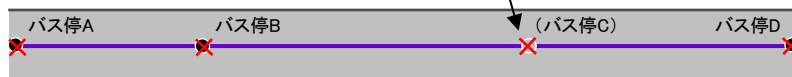


図 11 バスルート作成方法 2 (停車順 A→B→D)

バス停留所が側道に位置していれば側道を運行するようにバスルートを作成する。

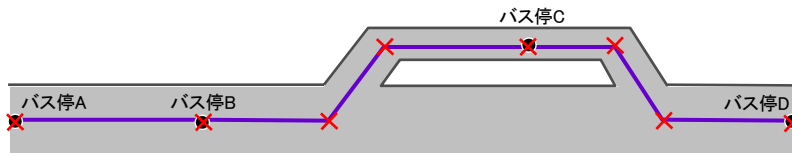


図 12 バスルート作成方法 3 (停車順 A→B→C→D)

3. 原典資料との対応

原典資料に運行経路とバス停留所が記載されている場合は、バスルートおよびバス停留所のデータを作成する。

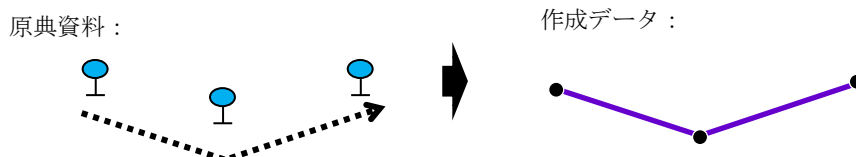


図 13 バス停留所との対応とバスルート作成方法

原典資料に一部の運行経路の記載がない場合は、運行経路を推定しバスルートを作成する。

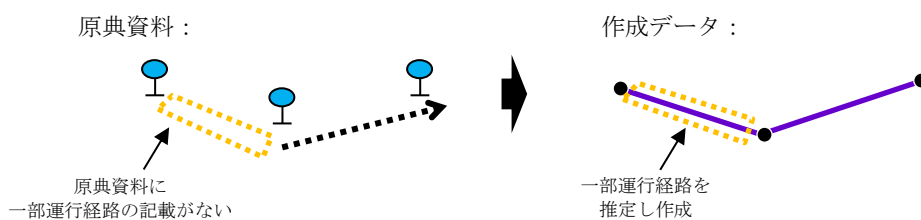


図 14 一部運行経路の記載がない場合のバスルート作成方法

自由乗り降り区間についても、記載されている運行経路をバスルートとして作成する。

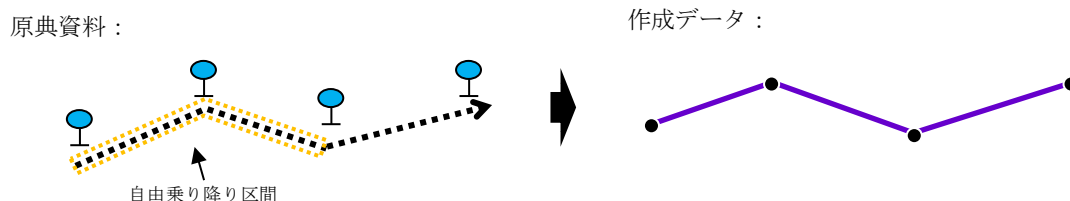


図 15 自由乗り降り区間のバス停留所作成方法

事業者名：CharacterString

原典資料に記されたバス停留所を運営する事業者の名称。地方自治体の運行するコミュニティバスの場合は、地方自治体名とする。事業者名の会社形態（「株式会社」等）は表 4のとおり、省略し、全て全角文字を使用し記述する。

例) 京阪バス株式会社 ⇒ 京阪バス (株)

表 4 会社形態の省略記述例

会社形態等	入力 (全て全角を使用する)
株式会社	(株)
有限会社	(有)
合名会社	(名)
合資会社	(資)
合同会社	(同)
医療法人 医療法人社団 医療法人財団	(医)
一般財団法人	(一財)
公益財団法人	(公財)
一般社団法人	(一社)
公益社団法人	(公社)
学校法人	(学)

また、自治体の場合の事業者名は市町村単位とし、政令指定都市の場合は事業者名を「市」、特別区の場合は事業者名を「区」とする。

例) 新潟県新潟市中央区 ⇒ 新潟市

例) 東京都江東区 ⇒ 江東区

◇ 運行委託

運行を他の事業者へ委託している場合、事業者名は委託元の名称で整備する。

自治体が民間事業者や町内会等に補助金を支給し運行しているバスは委託扱いとせず、事業者名は民間事業者や町内会等として整備する。

◇ 共同運行

共同運行を行っている場合、事業者名の区切りは全角の「・」を使用する。

自治体名は行政コード（JISコード）の昇順、民間事業者は事業者名を五十音（あいうえお）順の昇順で記述する。

また、自治体と民間事業者での共同運行の場合は、バス区分を「その他」、事業者名は自治体→民間の順かつ区切り文字は全角「・」を使用し、備考に「自治体と民間での共同運行」と入力する。

例) 鹿嶋市・潮来市・行方市

例) (株)伊豆東海バス・宇和島自動車(株)

■定義域

254バイト以内とする。

備考[0..1] : CharacterString

事業者名に関する内容かつ、該当地物に関して特別に記録すべき事項のみを記述する。運行情報のように頻繁に変化する情報は記述しない。

■定義域

254バイト以内とする。

4.2 空間スキーマプロファイル

国土数値情報の空間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル(JPGIS) 2014 空間スキーマ」を採用する。

4.3 時間スキーマプロファイル

国土数値情報の時間スキーマプロファイルは「地理情報標準プロファイル(JPGIS) 2014 時間スキーマ」を採用する。

5. 参照系

5.1 座標参照系

参照系識別子：JGD2011 / (B,L)

5.2 時間参照系

参照系識別子：GC / JST

6. データの品質

6.1 品質要求及び評価手順

データ品質要素	完全性・過剰
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合内に、原典資料が示すバスルートと対応関係がとれないバスルートデータが存在すれば、それを過剰なデータと数える。また、データ集合内に同一の地物インスタンスが重複して存在する場合、本体を除き、重複している余分なデータの個数をエラーとして数える。 ただし、高架道路と下道との重複、原典資料に誤りがあり過剰であることが正の場合を除く。
データ品質評価手法	原典資料との比較による全数検査を実施する。
適合品質水準	過剰データの個数：0 個

データ品質要素	完全性・漏れ
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合内に、原典資料と対応する地物データが存在しない場合、それをデータの漏れデータとして数える。 ただし、原典資料に誤りがあり、漏れであることが正の場合を除く。
データ品質評価手法	原典資料との比較による全数検査を実施する。
適合品質水準	データの漏れの個数：0 個

データ品質要素	論理一貫性・書式一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合の書式が、整形形式となっていない箇所（XML 文書の構文として正しくない箇所）を数える。
データ品質評価手法	XML パーサによる全数検査を実施する。
適合品質水準	XML 文書の構文エラーの個数：0 個

データ品質要素	論理一貫性・概念一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	データ集合と符号化仕様が規定する XML スキーマを比較し、矛盾箇所を数える。
データ品質評価手法	XML バリデータによる全数検査を実施する。
適合品質水準	符号化仕様の XML スキーマに対する矛盾の個数：0 個

データ品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物属性の値が、それぞれ規定された定義域に含まれていない場合、その個数をエラーとして数える。 誤率 (%) = (定義域の範囲外にある値を持つ地物属性の数 / 地物属性の総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

データ品質要素	論理一貫性・定義域一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物属性の値に使用されている文字が、それぞれ規定された定義域に含まれていない場合、その個数をエラーとして数える。 誤率 (%) = (定義域の範囲外にある値を持つ地物属性の値に使用されている文字の数 / 地物属性の値に使用されている文字の総数) * 100
データ品質評価手法	検査プログラムによる全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

データ品質要素	論理一貫性・位相一貫性
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	国土数値情報（バス停留所）が、バスルートを構成する点の座標値と一致しない場合、その個数をエラーとして数える。 また、分岐地点を除きバスルートの始終点にバス停留所がない場合、その個数をエラーとして数える。 ただし、ルートのないバス停は除く。 誤率 (%) = (エラーの個数 / 地物の総数) * 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

データ品質要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物と背景図（地理院タイル等の国土地理院発行の地図）を画面上に重ねて、ズームレベル15～17が表示される縮尺で表示し、背景図の道路上にないものをエラーとする。 ただし、他の道路と混同されない程度の位置ずれはエラーとしない。 誤率 (%) = (エラーの個数 / 地物の総数) * 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

データ品質要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物と背景図（地理院タイル等の国土地理院発行の地図）を画面上に重ねて表示したものに原典収集を並べて表示し、原典資料と齟齬があるものをエラーとする。 誤率（％）＝（エラーの個数 / 地物の総数）＊ 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

データ品質要素	位置正確度・絶対正確度
データ品質適用範囲	データ集合全体
データ品質評価尺度	地物を県単位で背景図（地理院タイル等の国土地理院発行の地図）を画面上に重ねて表示し、当該県内に含まれているかを確認する。当該県内に存在しない地物の個数をエラーとして数える。 ただし、経年変化等、背景図の方が誤りと思われる場合を除く。 誤率（％）＝（エラーの個数 / 地物の総数）＊ 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

データ品質要素	主題正確度・非定量的主題属性の正しさ
データ品質適用範囲	バスルート
データ品質評価尺度	地物属性の事業者名を原典資料と比較し、原典資料に記載されている内容と一致しない地物の割合を算出する。 誤率（％）＝（内容が一致しない地物属性の数 / 地物属性の総数）＊ 100
データ品質評価手法	全数検査を実施する。
適合品質水準	誤率：0%

7. データ製品配布

7.1 配布書式情報

■ 書式名称

JPGIS 2014 附属書 12（規定）地理マーク付け言語(GML)

■ 符号化仕様

国土数値情報応用スキーマの XML Schema は、JPGIS 2014 (GML) 附属書 12 の符号化規則に従う。また、国土数値情報応用スキーマが参照する基本データ型スキーマ、空間スキーマ、時間スキーマ等の標準スキーマの XML Schema は、次の URL に掲載されている XML Schema を使用する。

<http://schemas.opengis.net/gml/3.2.1/>

国土数値情報（バスルート）応用スキーマの XML Schema で使用する名前空間および名前空間接頭辞は次のとおりとし、XML Schema については付属資料参照のこと。

名前空間：<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/xsd/KsjAppSchema.xsd>

名前空間接頭辞：ksj

■ 文字集合

UTF-8

■ 言語

日本語

7.2 配布媒体情報

■ 単位

全国

■ 媒体名

下記サイトよりダウンロード。下記サイトでは、国土数値情報を無償で一般公開している。

国土数値情報ダウンロードサービス

URL：<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>

8. メタデータ

本製品仕様書のメタデータは、JMP2.0 を採用する。

国土数值情報（バスルート）製品仕様書 第2.0版

付属資料

付属資料－1 符号化仕様作成のためのタグ一覧

カテゴリ	パッケージ	クラス	属性・関連役割	型	タグ名	英語名 (属性・関連役割のみ)
交通-交通パッケージ						
N07: バスルートパッケージ						
バスルート						
						BusRoute
路線			GM_Curve	brt	Bus Route	
事業者名			CharacterString	boc	Bus Operation Company	
備考[0..1]			CharacterString	rmk	Remarks	

付属资料-2 符号化仕様

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<xsd:schema
  xmlns:ksj="http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/schemas/ksj-app"
  xmlns:gml="http://www.opengis.net/gml/3.2.1"
  xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  targetNamespace="https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/jpgis/xsd/KsjAppSchema.xsd"
  elementFormDefault="qualified">

  <!-- 外部参照 -->
  <xsd:import
    namespace="http://www.opengis.net/gml/3.2.1"
    schemaLocation="http://standards.iso.org/ittf/PubliclyAvailableStandards/ISO_19136_Schemas/gml.xsd"/>

  <!-- 基底要素 -->
  <xsd:element name="Dataset">
    <xsd:complexType>
      <xsd:complexContent>
        <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
          <xsd:choice minOccurs="0" maxOccurs="unbounded">
            <xsd:element ref="gml:AbstractGML"/>
            <xsd:element ref="gml:CompositeValue"/>
          </xsd:choice>
        </xsd:extension>
      </xsd:complexContent>
    </xsd:complexType>
  </xsd:element>

  <!-- 要素定義 -->
  <xsd:element
    name="BusRoute"
    type="ksj:BusRouteType"
    substitutionGroup="gml:AbstractFeature"/>
  <xsd:complexType name="BusRouteType">
    <xsd:annotation>
      <xsd:documentation>バスルート</xsd:documentation>
    </xsd:annotation>
    <xsd:complexContent>
      <xsd:extension base="gml:AbstractFeatureType">
        <xsd:sequence minOccurs="1" maxOccurs="1">
          <xsd:element name="brt" type="gml:CurvePropertyType">
            <xsd:annotation>
              <xsd:documentation>バスルート</xsd:documentation>
            </xsd:annotation>
          </xsd:element>
          <xsd:element name="boc" type="xsd:string">
            <xsd:annotation>
              <xsd:documentation>事業者名</xsd:documentation>
            </xsd:annotation>
          </xsd:element>
          <xsd:element name="rmk" type="xsd:string" minOccurs="0">
            <xsd:annotation>
              <xsd:documentation>備考</xsd:documentation>
            </xsd:annotation>
          </xsd:element>
        </xsd:sequence>
      </xsd:extension>
    </xsd:complexContent>
  </xsd:complexType>

```

```
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="BusRoutePropertyType">
  <xsd:sequence minOccurs="0">
    <xsd:element ref="ksj:BusRoute"/>
  </xsd:sequence>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup"/>
  <xsd:attributeGroup ref="gml:OwnershipAttributeGroup"/>
</xsd:complexType>
<xsd:complexType name="BusRouteMemberType">
  <xsd:complexContent>
    <xsd:extension base="gml:AbstractMemberType">
      <xsd:sequence minOccurs="0">
        <xsd:element ref="ksj:BusRoute"/>
      </xsd:sequence>
      <xsd:attributeGroup ref="gml:AssociationAttributeGroup"/>
    </xsd:extension>
  </xsd:complexContent>
</xsd:complexType>
</xsd:element>

</xsd:schema>
```